

平成27年度岐阜総合学園高等学校自己評価

(○ : 成果 ▲ : 課題 ※ : 来年度に向けての改善策)

1 学校経営

A (B) C D

- 部活動において、太鼓部が全国高等学校総合文化祭で文化庁長官賞（第2位）を受賞し、優秀校東京公演（国立劇場）に出演した。その他、ホッケー部男子の国体、インターハイベスト8、マルチメディア部の文部科学大臣賞受賞等、多くの部で好成績を残した。また、資格試験、検定試験、コンテスト等に積極的に取り組み、その成果を進路実現に生かすことができた。
- アクティブラーニングを取り入れた授業展開を教科単位で研究し、よい実践例を他教科でも取り入れるなど成果が見られた。
- ▲交通事故件数の大幅な減少は達成できなかった。これからも機会をとらえて安全意識の向上に努めたい。
- ▲部活動と勉強の両立、特に家庭学習の習慣化が課題である。
- ※教員の授業力の向上と、新しい授業方法の研究をさらに進める。特に国語、数学、英語について、年間計画に基礎学力の定着に向けた具体的な計画を取り入れる。
- ※すべての分掌が安全で安心できる学校づくりに取り組む。

2 教務部

A (B) C D

- 今年度より、各教科研究授業を行った。研究テーマは「基礎学力を身につけさせる授業」「アクティブラーニングを取り入れた授業」とし、授業力向上委員会でその成果が報告された。特にアクティブラーニングについて、各教科から素晴らしい取組が報告され、教科を超えて有意義な情報交換ができた。
- 出前授業を要望のあった中学校に実施した。生徒の科目選択後に模擬授業「高校数学」「金属の磨き」を行い、科目選択や高校の授業の魅力を伝えられた。
- 系列の特色を生かした指導の成果が資格・検定取得状況等に表れている。
- ▲研究授業について、研究グループ以外の職員への周知が不十分だったため参観者が同教科の職員のみとなり、他教科への広がりがなかった。
- ※1年次の国語・数学・英語の年間指導計画に、学力向上に向けた具体策を入れ、高校での学習の基礎固めを行う。
- ※授業研究は、今年度と同じテーマで教科ごとに行う。研究授業の時間・場所については職員へ周知を図り、前期・後期にそれぞれ1度は、研究授業を参観し、報告書を提出する。

2 進路指導部

(A) B C D

- 「行ける学校（職場）から行きたい学校へ、自分が成長できる学校へ」という目標の評価として、卒業生対象アンケートで進路満足度が80%を超えており、卒業後の離職・退学といった進路変更も少なくなってきた。指定校推薦は大学では30%以下となり、専門学校もA0・公募推薦が定着してきた。
- 進学者の第一志望校合格率（指定校除く）は、大学では70%弱、短大・専門学校はほぼ100%を

維持できた。

○就職は求人も多く獲得できたこともあり、内定率は、100%となった。公務員は志望者の半分の合格であったが、進路変更や就職2次応募など迅速に対応し進路決定ができた。

▲国公立志望者の総合学科・専門校枠での出願について、1年次より系列・科目選択から指導をしていくことが必要である。

▲3年次の中に、自主性・主体性が不足している生徒や、職業観や将来のビジョンが曖昧な生徒が例年と比較し多かった。1年次の「産業社会と人間」について来年度は大きく見直し形骸化している内容の更新を図りたい。

※何を学ぶのか、どうやって学ぶのか、それによって何ができるのかといった観点から、教育目標を捉えなおし、生きる力・確かな学力・キャリア開発力・社会人基礎力といった能力を統合・整理していくこと、それに基づき、関係部署と連携し、カリキュラムの計画と組織改革を進める。

※保護者への進路指導の方針や重点について、理解が進むような行事の持ち方、情報共有の方法を検討したい。

※大学入試・就職試験に対する改革について、情報を収集し、進路指導の体制の見直しについて研究をしていく。

3 生徒指導部

A (B) C D

○本校生徒の頭髪は、登校点検や普段の指導によって保たれている。現行の登校点検は必要と考える。昨年度の反省を基に、12月に点検を加え年間7回にした。やはり3年次生の進路内定後は乱れる生徒もいたことから、今後も実施の必要がある。普段の生活の中で気になったら指導することを徹底したい。

○昨年度創立以来初めて遅刻数が1000件を切った。現在昨年度と同等の遅刻数である。しかし3年次生の11月以降の遅刻・欠席が増加。この現象を食い止める方策が必要と思われる。

▲3年連続30件を超える交通事故が発生した。今年度は減少するよう啓発活動の強化を図ったが現在昨年度とほぼ同等の結果となっている。また、新しい試みで、11/4に三田洞自動車学校の協力を得て、自転車シミュレータ体験講座を実施していただいた。

▲情報モラル違反の指導は激減した。ネットパトロールから1名を指導。決してマナーが良くなったとは言いきれないので、定期的に注意をしなければいけない。

※校内における携帯電話不正使用者は減少傾向にあるが、ゼロでないということは、規定を守らない生徒がいることである。規定の見直しよりも、ロッカーに入れて管理することを徹底強化したい。

※以前までツイッターは誰でも見られる状況下で生徒は使っていた。しかし、最近では鍵をかけて許可された者しか見られないようにしていて、第三者にはその内容が分からない状態になっている。決してモラルが良くなったとは言いきれないので、安心せず、情報モラルに関する指導を実施していきたい。

※交通事故防止対策を強化するため、新しい取組（スタントマン実演など）も検討しつつ重点的

に啓発活動を実施したい。

4 特別活動部

A (B) C D

○生徒一人一人が、学校行事や、委員会活動、部活動などの諸活動において、意義を見だし、積極的に取り組む姿勢が、学校の活力となることができた。

○部活動を中心に、各種委員会、系列などにおいて、生徒が主体的に活動し、その結果、数々のコンテスト、コンクール等で結果を出した。

▲今年度1年次生の部活動定着状況に一部定着がみられなかった。特別活動部、部顧問、HR担任との連絡、連携を登録カードを使い保護者懇談などでフィードバックしていきたい。又、部活動に対して目標を見いだせない生徒が出てきている。

▲諸活動において、さらに学校への規範意識と、社会の一員としてのモラルやマナーを守る姿勢を培うことが課題である。

※それぞれの活動における学校への規範意識の向上と、奉仕する心の育成、活動のより明確な目的意識の設定と、社会の一員としてのモラルやマナーを守る姿勢を培う。

※部活動への取組については、新入生に対してのオリエンテーションの在り方、本登録後の活動状況など、特別活動部、部顧問、HR担任との連絡、連携についてより効率化を目指し、生徒一人一人に合った指導方法、援助について研究する。三年間を通して活動できる部活動の体制を検討する。

※生徒会活動においてより積極的に参加できるように、生徒会役員選挙から生徒一人ひとりの個性を尊重しつつ、活動を通して協調性、規範意識を高める姿勢を培う。

※HR活動の充実化を目指し指導法の研究を行う。指導となる指針をHR担任に提示できるようにプロジェクトチームを作り、研究・研修を行う。

※保護者、地域の方々により生徒の活動を理解していただけるよう、より良い広報活動の研究をする。

5 保健厚生部

(A) B C D

○集団行動では、担当職員が早い時間から指導を始め、生徒も素早い行動が出来た。新体力テストでは、今年度も良い成績であった。

○保健室の利用において、怠学傾向の生徒利用もなく適切であった。

○AED講習会では、心停止事故が発生した時、至急対応できるように、職員とスポーツ科学系列の生徒が受講し修了証を受けた。

▲清掃が不十分なところ、ゴミの出し方（分別）、飲食ゴミの放置等、一部マナーの悪い点が見受けられた。

※今年度は概ね良い活動・実施状況であったので、来年度も今年度同様、活動・実施していきたい。ゴミの分別、放置、マナーについて注意していきたい。委員会を通し、学校清掃活動をより積極的に行いたい。

6 図書部

(A) B C D

○昨年度と比較し、更に充実した朝読書が実施できた。

- 図書館で読書に親しむ生徒が多くなるとともに、貸出冊数が増加した。
- 読書指導の一環である「読み語りの会」の参加者が増加し、盛況であった。
- 「第61回岐阜県青少年読書感想文コンクール高等学校部門」に2編応募した結果、2編とも佳作に入賞した。
- 「第47回岐阜県高等学校図書館だよりコンクール」で最高の県知事賞を受賞した。
- ▲読書に興味・関心のない生徒や読む習慣が身に付いていない生徒への対応。
- ※読書に興味・関心のない生徒に対しては、折に触れて職員全体で読書の意義を説くとともに、人間関係を大切にしながら継続的に指導していく。
- ※5年目を迎えた通年朝読書はしだいに定着してきたが、さらに充実発展させるための工夫を重ね、本校が誇れる情操教育の一つとしていきたい。
- ※学級文庫の本と出会うことによって、読書に興味・関心を持ったり読書の幅を広げたりする生徒も多いため、来年度は学級文庫を更に充実させたい。

7 渉外部

Ⓐ B C D

- 会員との連携をより進めたことでPTA研修、学園祭・耐寒競歩大会での学校行事に対する参加者が増えた。
- ▲PTA総会、PTフォーラムにより多くの人に参加できるように進める。

8 1年次

Ⓐ B C D

- 「産業社会と人間」における様々な講話や講演、ライフプランの作成、インターンシップ等において、自己の将来について真剣に考えることができた。
- 生徒同士の好ましい人間関係、教師との信頼関係の確立、明るく活気あるクラスの雰囲気づくりを目指し、生徒自らの力を発揮させることができた。
- ▲学習に対する積極的な姿勢の養成、とりわけ、家庭学習の習慣を定着させる指導が今後の課題である。
- ※自己の進路目標やライフプランを見すえ、進路実現や生涯学習への基礎となる学力を身に付けさせるため、家庭における学習習慣の定着を図る具体的な方策を打ち出していく必要がある。
- ※生命の尊さや社会規範の持つ意味を理解させるため、あらゆる機会を通じて啓発活動を行っていく必要がある。

9 2年次

Ⓐ B C D

- 自ら選択した系列の総合学習を通して、自己の将来について真剣に考えることができ、資格試験や外部模試などにも積極的に取り組むことができた。
- 年次会での情報共有を密にし、問題解決に向けて関係部署との連携を図り、迅速かつ適正に対応することができた。
- 全員が参加した修学旅行では、生徒同士の良好な人間関係を構築し、1年次から行った事前研修の成果を生かして有意義な研修とすることができた。
- ▲家庭における学習習慣が定着しておらず、定期考査前しか勉強しないという現状を打破する

意識改革が必要である。

※進路目標やライフプランの実現に向け、基礎的な学力を身に付けさせるため、家庭における学習習慣の定着を図る具体的な方策を、教務部や進路指導部、系列、教科とともに打ち出していく。

※各自の進路目標に合わせて、個々の状況を把握した上で、適切かつ的確な助言を行うことができるサポート体制を整備する。

※生命の尊さや社会規範の持つ意味を理解させるため、あらゆる機会を通じて啓発活動を行っていく。

10 3年次

A B (C) D

○進路指導部・担任・系列の連携で、殆どの生徒は希望の進路を実現できた。

○平素の注意喚起が奏功したのか、事件・事故が皆無に近かった。

▲的確な進路指導ができず、進路確定の時期が大きく遅れた生徒が少なからずいた。

▲各種提出物の期限を守ることが出来ない生徒が多くいた。年間では相当数の提出書類があり毎回叱咤していたが、なかなか改善しなかった。

▲諸行事への積極的・自主的参加は、総体としては成果が見られるが、個々人が意識的に行えるような指導ができたとは言い難い。

※生徒間の人間関係を最大限配慮したクラス編成を。

※HR活動や、クラス内の状況、進路状況や指導の経過など、年次会では連絡を密にとり、情報共有はもちろんのこと、当事者意識を持って連携・扶助していく意識を、各担任が持たなければならない。

※本校の幅広い進路希望に適切に対応するため、進路指導部・各系列との連携は元より、各担任一人一人が進路指導について深く研究しなければならない。